

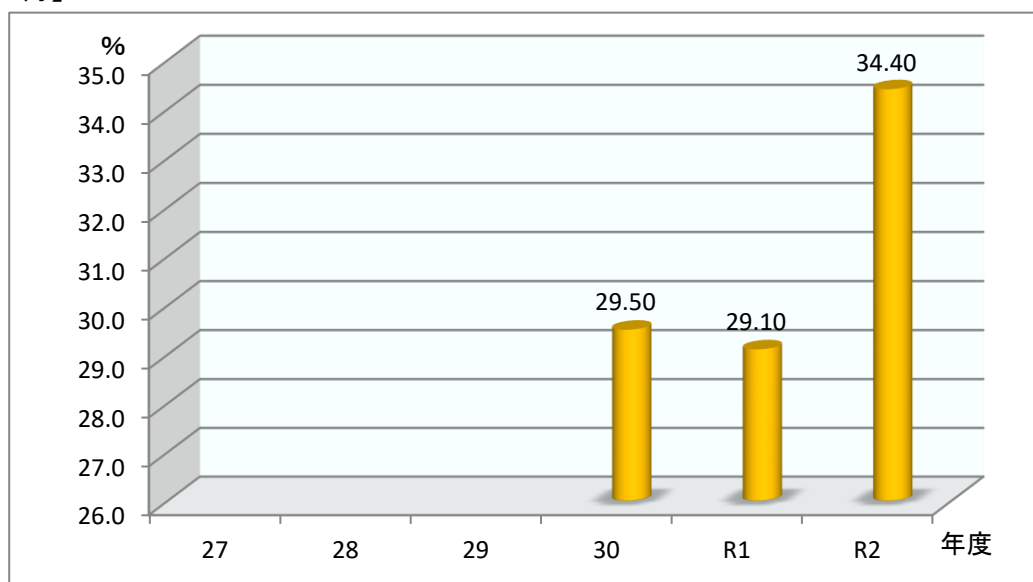
## 72 一般病棟の重症度, 医療・看護必要度

### 解説

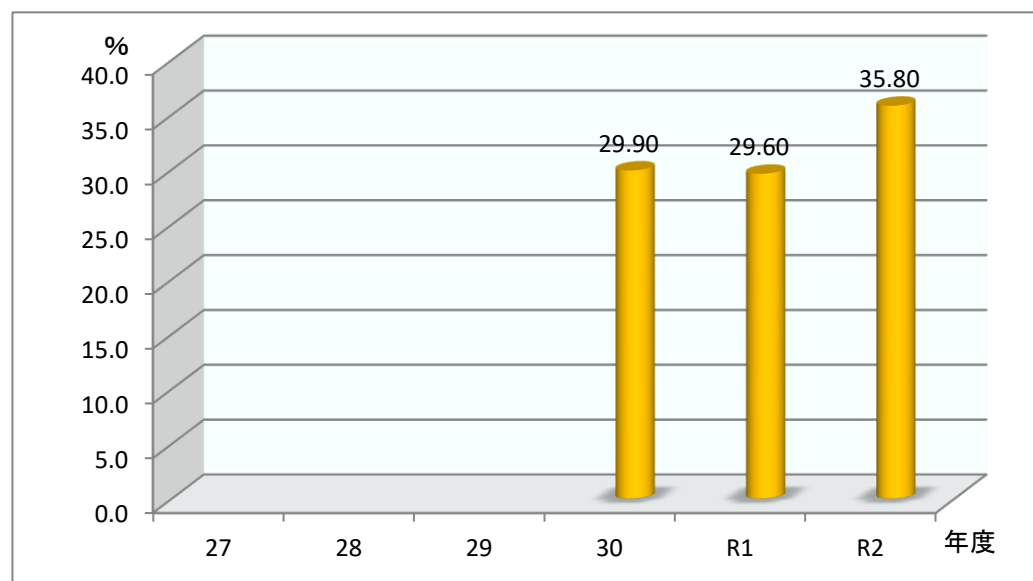
一般病棟における重症度及び、医療並びに看護の必要度を評価する指標です。急性期に密度の高い医療を必要とする状態であることを示しているため、この指標が高い医療機関は急性期医療に貢献していると考えられます。大学病院が急性期医療を担っていることをあらかず指標になりますが、診療科の構成(外科は高くなりがち)やICUの病床数等にも影響を受けるため、目安の一つとして捕らえる必要があります。

### 実績

【4～9月】



【10～3月】



## 自己点検評価

本院は地域の急性期医療を担っており、また、地域医療の機能分化を推進するという観点からも、一般病棟の重症度、医療・看護必要度を一定数以上維持できています。

## 定義

一般病棟の重症度、医療・看護必要度。  
対象年度の上半期(4～9月)と下半期(10～3月)の各月の一般病棟の重症度、医療・看護必要度(%)を平均したものです。本院では、重症度、医療・看護必要度Ⅰの評価を記載しています。  
※平成28年度より追加された項目です。  
※平成30年度診療報酬改定より重症度、医療・看護必要度Ⅰ・Ⅱに評価方法が分かれました。これにより、過去の値と単純比較できないため、平成30年度以降の表記となっています。

## 算式

分子: 該当患者延数  
分母: 一般病棟在院患者延数